

2年 数学科 「平行と合同（平行線と同位角・錯角）～角度を求めよう～」

1. 本校で重点的に育成したい資質・能力と本単元との関わり

自己決定 共感的人間関係 自己存在感

2. 取組の概要

本単元のゴール「平行線と「く」の字の問題についていろいろな方法で角度を求めることができる。」

カリキュラムマネジメントを意識した授業づくり

対頂角・同位角・錯角とは(2)	三角形の内角の和(1)	多角形の内角の和と外角の和(2)	平行線と「く」の字(2)	星形五角形
<ul style="list-style-type: none"> 対頂角・同位角・錯角 平行線と同位角 平行線と錯角 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の内角の和が180°になる理由 三角形と外角 	<ul style="list-style-type: none"> n角形の内角の和は$180^\circ(n-2)$ n角形の外角の和は180° 	<ul style="list-style-type: none"> 平行線と「く」の字 ブーメラン型四角形(本時その1) 	<ul style="list-style-type: none"> 星形五角形

自己存在感

比較する

自己決定

説明する

共感的人間関係

ヒントカード

学びの「個別最適化」のためのICT活用

平行線と「く」の字の問題とブーメラン型四角形の問題のどちらからでも解いてよいという形にし、自分がチャレンジしたいと思える問題から取り組ませた。また、ヒントカードを用い、必要な既習事項の知識をiPadのロイロノートのアプリで自分から資料箱から取り出せる形にした。

わからない場合は、周りに聞きに行くもしくは提出された解答法をみて自分なりに解釈をしようという意識が見られた。

3. 取組の成果○と課題●及び改善案

- 全ての生徒が課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。
- 平行線と「く」の字の問題では、平行線の補助線を引くことが中学2年生で学んだ平行線の錯角を用いる最もシンプルな解答である。以降の授業では、この解き方を暗記するのではなく、他の解き方で解く生徒がとて多かった。しかし正答率はほかの分野よりも高いものとなった。
- 一度に二問取り組んだことで、様々な解き方の深いところまで学ぶことが難しい。それぞれに6通りほど解き方があるが、すべての解き方を検討することができなかった。また、一度解くことができた問題の別解に取り組もうという姿勢は高くはなかった。

改善案 他者の考え方の良さや面白さをまとめて、発表するような共感性のある授業を取り組んできたい。